



西宮市消防局

鳴尾消防署

坂本救急救命士



通所サービス協会

藤野会長

通所サービス協会から

質問を募集し答えていただきました。

「デイサービスに求める救急知識は？」

高齢者特有の病気や怪我を知ってほしいですね。急性だと狭心症や心筋梗塞、虚血性心疾患。慢性だと心不全や糖尿病、腎不全、肺炎、高血圧。怪我だと大腿骨頸部骨折や大腿骨転子部骨折などがあります。食事中の窒息も多いので注意していただきたいです。高齢者の身体的な変化にも注意が必要です。体のむくみなどは体調の変化を知るひとつのサインになると考えられます。もうすでに取り組まれていることだと思いますが、起った事故がなぜ起きてしまったのか、再発しないよう職員の中で共有して対策してほしいと思います。

「救急搬送時に必要な情報はどのようなものでしょうか？」

西宮市救急ガイドブックという冊子の中、もしくは西宮市のホームページに「救急対応シート」というものがあります。これにお薬手帳の情報を合わせて渡していただけると、救急隊として知りたい情報が得られるので搬送がスムーズになります。事業所によってもフェイスシートが様々で、必要な情報がどこにあるかを探すのにも時間がかかる場合があります。「救急対応シート」の書式を使用いただければ、必要な情報がすぐにいただけるのであります。また、シートを作成し何年間もそのままにしておくのではなく、変更があればその都度最新の状態に書き換えていただき、最低一年に一回は見直していただくようお願いしたいです。

「コロナ禍において特に必要な情報はありますか？」

救急隊が聴取する内容は、搬送先の病院で求められる情報です。最近よく求められる情報として「直近2週間の発熱」「ワクチン接種の有無」「事業所でのクラスターの発生状況」があります。高齢者で独居などにより、必要な情報が取れない場合もあるかと思いますが、分かる範囲で構いませんので教えていただければ、医療機関への連絡も円滑になるかと思います。

「CPR（心肺蘇生法）習得の必要性はあるか？」

必ず習得していただきたいです。救急隊の到着まで全国平均8.9分と言われています。さらにそこからフロアに上がる等の時間もかかります。この時間は救急隊には埋めることができません。心肺停止からの蘇生率は10分間何もしなければ10%以下になると言われています。初期対応の心肺蘇生法やAEDが大切となりますので、デイサービスの皆様には、心肺蘇生法をぜひ学んでいただき、救命率を上げていただきたいと思います。

「心肺蘇生法は、どこで習得できますか？」

普通救命講習とは別に、「応急救手当普及員」という資格があります。この資格を取得すれば、普通救命講習(3時間)を始めとして、各種救急講習会を事業所の職員が自前で開催することができるようになります。お近くの消防署までお問い合わせください。受講期間は3日間×8時間。

今年度の開催は11月30日から12月の2日まで。受講料は無料、ただしテキスト代がかかります。受講資格は現在西宮市に在住、在勤、在学のいずれかを満たすことが条件となります。（※今年度の募集は終了しております）

「ご家族から聞いた搬送先の希望を、救急隊にお伝えしても良いのでしょうか？コロナ禍で搬送先がなかなか決まらないと聞きますが」

もちろん希望は言ってもらって結構です。もちろん我々もプロなので、症状に応じた病院を選定しています。例えば脳卒中であれば時間との勝負なので、近くの専門病院から搬送先を考えて手配します。ですので、ご家族の希望外の病院に搬送になる場合、なぜこの病院に搬送したほうがいいのか可能な限り説明します。搬送時、事業所の皆様にはご家族といつでも連絡が取れる状況を作成していただきたいです。また、ご家族がすぐに事業所に来るのか、直接病院へ行くのか、それは何時になるのか、併せてご確認いただきたいです。ご家族が来られない場合は事業所のスタッフが同乗してほしいですが、どうしても難しい場合は、他の代替手段を考えておいてください。

「救急要請の項目は？こんなケースで呼ばないで、と思うことがありますか？」

皆それぞれに緊急性の尺度は異なります。いつもと違う、慢性的ではない「突然起きたこと」と感じるのであれば救急車を要請してください。詳しくは「救急ガイドブック」や総務省消防庁のHPに掲載している「救急車利用マニュアル」をご覧ください。救急要請した後に状態が良くなり、救急搬送しなくても大丈夫という状況になった場合は、再度119にかけてその旨をお伝えください。

「健康医療相談ハローにしのみや」（0120-86-2438）
というご存知でしょうか。救急搬送すべきかどうか迷う場合については、こちらのダイヤルに相談いただくこともできます。ぜひご活用ください。

救急隊は、一刻も早く病院へ搬送するために到着してから搬送までの短い時間で情報を聞かないといけません。事業所に到着してからフロアへ行くまでの数分も大切な状況確認の時間です。到着後フロアへ案内してくださるスタッフの方に質問をしても、わからないと言われると困ることがあります。繰り返しになりますが、ぜひ「救急対応シート」をご活用していただき、必要な情報をすぐに提供して頂けたらと思います。

今回のインターのように通所サービスの方とつながりを持つことで、少しでも搬送時のお役に立てればと思います。いざという時にスタッフがパニックにならず安心できるためのご準備を宜しくお願ひいたします。

インター：藤野・蔵田・内原・下江（2022/9/3）Vol.3